

現地農業情報（沖永良部島・与論島）令和7年4月

（1）沖永良部島さとうきび生産量，35年ぶり10万t超え

沖永良部島における今年度のさとうきび圧搾が4月30日に終了しました。生産量は106,827tで昨年に比べ約2万t増収し、平均糖度は14.55度でした。生産量が10万tを超えるのは、平成元年度（114,877t）以来、35年ぶりです。さとうきびの安定生産に向けて、農業普及課は引き続き支援します。

（2）与論島のさとうきび圧搾完了，生産量23,745t

与論島における今年度のさとうきび圧搾が4月6日に終了しました。生産量は23,745tで、2年ぶりに2万t台に回復しました。単収は昨年より高い5.9t/10a、平均糖度は昨年より低い13.44度でした。昨年、11月の集中豪雨により与論島製糖会社の製糖ラインが浸水する被害があり、圧搾開始の遅れが心配されましたが、製糖会社および関係機関の尽力により、復旧が早急に行われ、予定どおりの12月16日に圧搾を開始できました。

（3）「ヨロン島サステナブル畜産認証制度」始まる！

与論町は、持続可能な畜産を推進し、安心・安全な畜産物確保と産業振興を目指す「ヨロン島サステナブル畜産認証制度」を今年4月に制定しました。23日に初の認定審査委員会が与論町役場及び現地農場で行われ、島内の経産牛肥育を行う法人が認定されました。同法人は食品製造副産物を活用した飼料給与、脱炭素及び資源循環等に取り組んでいます。農業普及課も同委員会の一員となっており、今後も支援を継続していきます。

現地農業情報（沖永良部島・与論島）令和7年5月

（１）沖永良部島の製糖終了、35年ぶりの生産量10万t超

沖永良部島における今年度のさとうきび压榨が、4月30日に終了しました。生産量は昨年度を20,245t上回る106,827tで、平均糖度は昨年より2.09度低い14.55度でした。糖度は昨年度を下回ったものの、生産量は例年を大きく上回りました。沖永良部島でさとうきび生産量が10万tを超えるのは、平成元年度以来、35年ぶりとなりました。農業普及課は、収量確保と安定した生産のために、引き続き指導を続けていきます。

（２）グラジオラスの再興を！新規栽培者向け研修会を実施

花き生産者が年々減少している中、知名町では関係機関と連携して、グラジオラス新規栽培者の支援を行っています。5月14日、知名町役場にて新規栽培者向けの研修会を実施し、農家5名、関係機関2名が参加しました。基本的な栽培技術の講義を行ったあと、全員で定植時の球根消毒やほ場での病害事例等について意見交換をしました。今回は座学でしたが、9月に、ほ場で定植方法についての研修を行う予定です。農業普及課はグラジオラス栽培の復活をかけて継続的に支援していきます。



（３）肉用牛の防暑対策を推進

5月2日、沖永良部畜産部会（構成：家畜保健衛生所、農協、町、農業共済組合、農業普及課）は、沖永良部家畜市場の屋根に夏期の防暑対策として消石灰の塗布作業を実施しました。この取組は、子牛セリ市に子牛を出荷する肉用牛農家に消石灰塗布の効果を実感してもらい、各農家での実践を促すことを目的としています。また、当日は牛の熱中症が昨年発生した肉用牛農家1戸でも塗布作業を行い、今後の暑熱対策の効果を実証することとしています。



（４）5月子牛セリ市で与論島が大島地区トップに

5月6日に開催された与論家畜市場の子牛セリ市では、去勢牛および雌牛の平均価格が税抜き約55万円となり、前回と比べて約3万円高く落札されました。この価格は、大島地区内で5月に開催されたセリ市の中で最高価格を記録しました。出品された子牛の発育も良好で、購買者から高い評価を受けました。一方で、肩後部の幅がやや不足している子牛も見受けられたことから、農業普及課としては、子牛のさらなる商品性向上に取り組めます。

現地農業情報（沖永良部島・与論島）令和7年6月

（１）沖永良部地区農業青年クラブ連絡協議会総会を開催

6月26日、知名町フローラル館で、沖永良部地区農業青年クラブ連絡協議会総会が開催されました。総会では、令和6年度活動実績報告、令和7年度活動計画案並びに役員改選について承認されました。令和6年度は、群島交流会や青年農業者会議などの活動報告の他、農産グランプリの優勝報告がありました。また、来賓の指導農業士より励ましのことばを頂き、青年クラブ員もやる気を漲らせました。沖永良部地区農業青年クラブ発展のため、関係機関一同、今後も引き続き支援を続けていきます。



（２）かごしまブランド沖永良部ばれいしょの出荷実績

令和6年産のJAあまみ和泊・知名のばれいしょ出荷実績（6月末現在）は、面積613ha（前年比97%）数量8,675t（前年比95%）金額27億25百万円（前年比150%）でした。天候不良による植え付けの遅れや11月上旬の大雨による被害がありましたが、12月中旬から作物の生育が回復し、その結果、販売金額は初めて20億円を超え、前年よりも大幅に増加しました。今後も安定した生産を続けられるよう関係機関と連携して支援していきます。

（３）かん水を行ってニンニクの収量UP

ニンニク栽培で、かん水チューブ（スマレイン）を用いたかん水効果の実証を行いました。かん水区は無かん水区と比較して、地上部の生育が良く、鱗茎肥大も良かったため収量が増加し、10a当たりの収量は無かん水区比146%でした。また、実証農家からはスマレインを用いたかん水は水の粒が細かく、均一に散水できるため、かん水ムラが少なく、短時間でかん水できるとの意見が得られました。今後は生産者に実証結果の周知を図り、水利用の促進につなげていきます。

（４）新規就農者に期待！励ましの会を開催

6月26日、知名町フローラル館で、新規就農者励ましの会を開催し、令和6年度に新規就農した和泊町3名、知名町3名のうち3名が出席のもと、指導農業士、青年クラブ、女性農業経営士を含む52人が参加しました。新規就農者は自己紹介と併せて「規模拡大や新たな品目、販路拡大などにも取り組みたい」など抱負を述べました。両町長の励ましの言葉、支援体制や4H Cの紹介等を行い、関係機関一体となって激励しました。新規就農者が営農定着できるよう引き続き支援していきます。



(5) サシバエ防除で牛のストレス軽減，飼育環境の改善を学ぶ

6月27日，令和7年度徳之島地区牛伝染性リンパ腫研修会（主催：鹿児島中央家畜保健衛生所徳之島支所）が，和泊町えらぶ長浜館で開催され，畜産農家や関係機関・団体等から約40名が参加しました。北海道大学の教授による牛伝染性リンパ腫に関する講演の後，農業普及課が本病を媒介するサシバエの生態や効果的な防除法について説明しました。吸血虫であるサシバエを防除することで牛のストレス軽減による生産性向上につながることから，今後も積極的に情報発信を行っていきます。

現地農業情報（沖永良部島・与論島）令和7年7月

（１）子牛セリ市前生産者研修で儲かる子牛づくりを学ぶ

7月2, 3日に沖永良部家畜市場で子牛セリ市生産者研修会を開催。「儲かる子牛づくり講座」として、初日は「分娩2か月前からの飼養管理」、2日目は「分娩時の飼養管理」について講演を行いました。生産者からは、初めて聞く内容もあり大変勉強になったとの感想がありました。参加者は20名と少数でしたが、資料は生産者グループラインで共有しました。なお、7月の沖永良部市場の子牛価格が大島地区トップとなり、喜ばしい結果となりました。



（２）与論町県畜産共進会予選会が開催され大いに盛り上がる

7月15日に与論家畜市場で県畜産共進会予選会が開催され、農業普及課も審査員の一人として審査しました。出品された牛は、発育良好で体積が豊かな牛が揃っており、与論町の和牛改良の高さがうかがえました。また、予選会終了後は、牧草ロール転がしのイベントも行われ、生産者や審査員、町、農協等を含む関係者全員で参加し、大いに盛り上がりしました。本日、1席となった牛が、今後大島地区予選会を突破し、県畜産共進会へ出品できるよう支援していきます。



（３）令和6年度沖永良部花き専門農協キク部会反省会が開催される

7月16日、沖永良部花き専門農協にて出荷反省会が開催されました。春の彼岸出し以降、厳しい相場が続いており、国内7市場の担当者を交え「これからの花産地の歩み方」をテーマに意見交換しました。市場側から彼岸出し以降の安値の原因や、厳しい販売環境下でも踏ん張っている産地があることなどが紹介されました。また、「沖永良部の優品はばらつきが多く相対取引には不安がある、ここの解決が今後必要」との厳しい意見も頂きました。普及課は関係機関と連携し、高品質切り花の産地化を目指します。

（４）低濃度エタノールを用いた土壌還元消毒を実施

7月14日～16日、与論町にて生産者および関係機関の協力のもと、低濃度エタノールを用いた土壌還元消毒が2か所で実施されました。トルコギキョウの栽培では立枯病対策が重要な課題であり、本実証により新たな土壌消毒法の選択肢を増やすことを目的としています。今後は8月下旬と9月下旬に定植し、11月に1番花および1月に2番花における立枯病の発生状況を調査する予定です。農業普及課は関係機関と連携し、立枯病対策の確立を目指します。



(5) 農業経営継承・法人化個別相談会及び経営発展研修会を開催

7月3日～4日にかけて与論町で「農業経営継承・法人化個別相談会及び経営発展研修会」を開催しました。農業経営スペシャリスト（税理士）を迎え、花き農家1戸、畜産農家1戸に対し、法人化に係る個別相談を実施しました。また、研修会として、認定農業者約20名に対し、経営発展に伴う法人化のメリット（信用や人材確保）やそれに伴う税務対策、雇用にかかる社会保険加入義務など留意点の理解を深めることができました。今後も管内農家への経営発展に向けた支援を進めていきます。

